

懐風館高校 令和6年度第2回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年11月20日(水) 14:00~16:00

2 出席委員 5名

木村会長 黒木委員 松村委員 井上委員 横尾委員

3 授業見学

1年生 現代国語及び日本語指導(抽出)

2年生 生物基礎 3年生 数学演習β を出席委員全員で見学

4 報告

(1) 令和6年度学校経営計画進捗状況及び学校の概況について(校長より)

- ・第1回授業アンケートの学校平均は3.18で目標をやや下回った。今後の授業改善への取組みを一層進めなければならない。
- ・教育相談体制強化の取組みを進め、ケース会議・カンファレンス会議を適宜行い、SC・SSWとの連携強化を図りながら生徒支援体制の構築を図っている。
- ・懐風館セミナーや大学バス見学ツアーなどの進路体験行事を通じて、進路意識の高揚を図っている。
- ・地域や中学校との交流は計画通り進んでいる。今年度は新たに小学校との交流を進め、スポーツでの交流や文化祭に小学生を招待する取組みを始めた。

(2) その他

- ・進路指導の課題としては、学力中間層の生徒のレベルアップとベネッセB2レベルの生徒がより上位の大学をめざすための補習を含めた指導がある。
- ・令和7年度入学者選抜において、懐風館高校は5クラス200人募集と決定。

5 協 議

協議題：懐風館高校に求めるもの ～より魅力ある学校であるために～

□・・・学校運営協議会委員 ▲・・・事務局

□授業を見せていただいたが、生徒は落ち着いて授業を受けており、先生との関係もしっかりと構築できていることが見て取れた。

□教育相談体制の強化が進んでいることは評価できる。より多くの生徒を支援できるよう取組みを進めてもらいたい。

▲今年度は、特に早期対応のためのケース会議・カンファレンス会議に力をいれている。

□中学校でも不登校生徒が増加しており、通信制高校を希望する生徒が増えている。そのような状況の中、普通科において教育相談体制を充実させることは大きな意義がある。

- 私学との競合とよく言われているが、市や地域と連携した取組みは公立高校の強みの一つである。地域密着型の学校として教員や生徒たちにどんどん地域に出て行って交流を図ってもらいたい。
- ▲今年、羽曳野市おみやげプロジェクトやはにわフェスティバルなど地元羽曳野市と連携した取組みを進めている。山入端市長が本校のことを気にかけていただき、応援していただいていることを非常に心強く感じている。
- 懐風館高校の生徒には伸びしろがたくさんあると思う。その力を最大限に伸ばすために、今後もより多くの達成感や自己肯定感を得ることができる学びや体験の機会を提供していってもらいたい。
- ▲学習の成績だけではなく、部活動や行事における取組みや仲間づくりを生徒をはぐくむ柱としてきた。これからもその部分は本校の教育の柱として大切にしていきたい。
- 懐風館高校がこれまでに歩んできた道のりと今現在の取組みからは、まさに地域密着型の学校であることがよくわかる。それが懐風館高校の特色であり強味である。そのような懐風館高校の魅力を地域や中学生に積極的に発信し、アピールしていってもらいたい。